

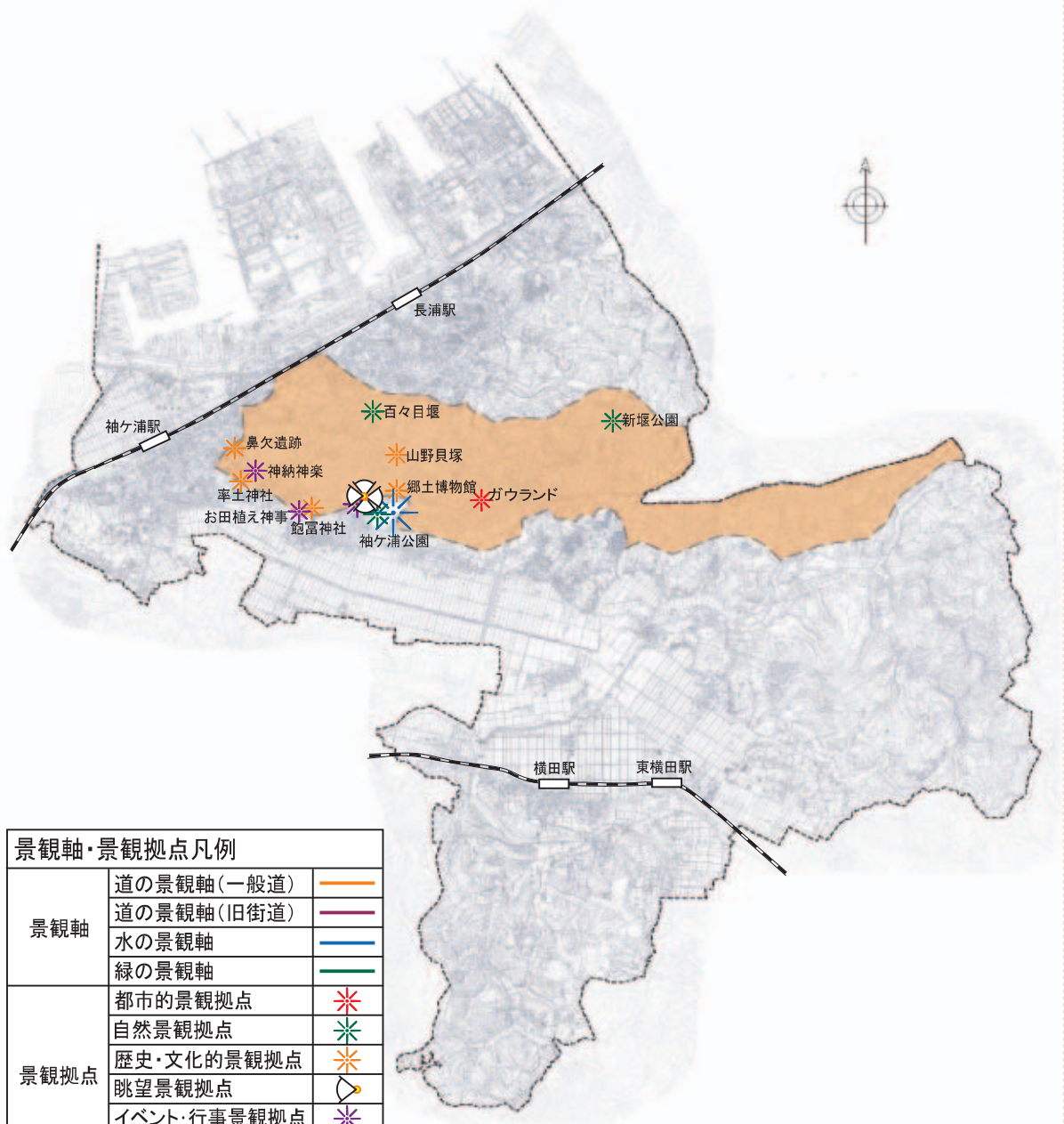
2 畑地・集落エリア

地区の目標

周辺の緑と集落・耕作風景の調和が取れた景観まちづくり



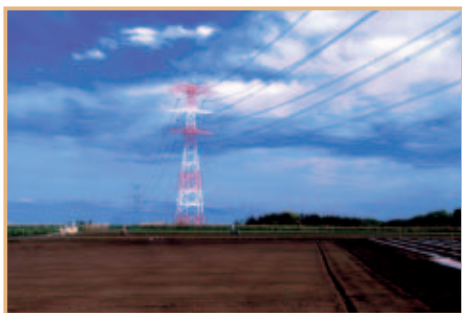
主に、台地上に広がる畑作地帯とその周辺集落



■ 3. 良好な景観の形成に関する方針 ■

景観の特徴

- 台地部に広がる畑作地域と既存集落により形成されている地域です。緑豊かな屋敷林や歴史・文化を伝える神社仏閣が多くあり、高台からは田園の風景、対岸の刈り払い、富士山が望めます。
- 市街地に隣接して宅地開発等を行う場合は、地形や自然環境に配慮し、農地等との調和を図る必要があります。
- 多くの建築物では、黄赤（YR）、黄（Y）系を基本とする、自然の色との調和が図られた色相が使用されています。



景観形成の基本方針

空や遠方の山々を見渡せる景観づくり



- 袖ヶ浦らしい富士山や田園風景などの眺望ポイントを親しみ活用する。
- 広大な畑地、屋敷林等の生活に密着した緑を活かした昔ながらの住環境を守る。
- 各種資材等を積み上げる場合は、高さを抑えるとともに整然とし、公の場所から容易に見えないように、外周部の緑化や遮蔽等に配慮する。

緑と調和した伝統的な住環境の形成



- 森林に囲まれた伝統的な風景を尊重し、自然と人々の暮らしが調和した建築物等の計画とする。
- 開発による住宅地においては、まちづくりのルールなどにより、周辺環境と調和した潤いのある街並みを形成する。
- 地域の歴史、文化を伝え、地域の習慣、伝統を継承する。

豊かな土壌と緑、ため池や堰などの周辺環境を活かした景観づくり



- 既存の樹林地、水辺環境を守り、地域に親しまれる環境づくりに努める。
- 農地の転用及び土地利用の転換により駐車場及び資材置場等へ造成行為を行う場合は、周辺の景観及びまち並みの美観に配慮する。

豊かな自然と調和した色彩を基本とした景観づくり



- 畑地が広がる集落地域では、景観の基調となっている豊かな自然環境に建築物や工作物などが調和するように配慮する。
- 集落景観では、中・高彩度色の鮮やかな色は目立つため、建築物の外壁の基調色とすることは避け、無彩色や低彩度とすることで、周辺の景観との調和を図るよう努める。